

いわき農林水産ニュース

平成29年10月号(第152号) 発行 10月26日

ふくしまからはじめよう。

『食』と『ふるさと』新生運動ニュース



とても大きい旬の梨「新高」。
11月にはベトナムで販売予定です!

目次

- ・【特集】ほ場整備……………p.1
- ・【重点施策】環境と共生する農業を推進しています…p.3
- ・首都圏の大学生がいわきの今を見学!……………p.5
- 〔管内の各種取り組みの実績(10~11月)〕……………p.6~
- 〔お知らせ〕
- ・いわき地方の農林水産物モニタリング検査結果……………p.9
- ・イベント情報……………p.10
- ・全国植樹祭一般参加者(県内公募)募集中!……………p.11
- 〔連載記事〕
- ・GAPコーナー……………p.12
- ・6次化商品紹介……………p.12
- ・いわき管内の県農林水産部関係機関業務紹介……………p.13

【特集】ほ場整備

津波被災農地、大区画ほ場へ!

市内3地区のほ場整備により、対象地区すべての農地を、計画の1年前倒して営農開始となるよう工事が進んでいます。

1 津波被災農地のほ場整備とは?

東日本大震災の津波により津波被害を受けた農地は、除塩作業の実施により、平成24年度までに営農を再開しましたが、ほ場の大区画化や担い手農家への農用地利用集積により農村地域の復興を図ることを目的に、いわき地方では3地区(下仁井田地区(四倉町)、錦・関田地区(錦町、勿来町)、夏井地区(平))約253haのほ場整備を行っています。

ほ場整備とは、不整形なほ場や小さい区画のほ場を30a(3,000㎡)以上のほ場に整備し、道路や水路の整備を併せて行うことにより、大型の農業機械の導入や水管理のしやすいほ場とすることです。当所では、いわき地方では50a(5,000㎡)~80a(8,000㎡)の大区画のほ場を整備しています。



(夏井地区津波による湛水状況)

海岸は、新舞子ビーチ(現在、閉鎖中)付近



(錦・関田地区津波被害状況)

2 担い手農家への農用地利用集積とは？

地域で農業の核となる認定農業者や農事組合法人へ、賃貸借や農作業受委託等により農地をまとめて、経営規模の拡大を図ることにより、効率的な農業経営を行うことです。

下仁井田地区では認定農業者3名、錦・関田地区では認定農業者4名+1法人、夏井地区では認定農業者6名+1法人に平成28年度末までに121.6ha（48.2%）の集積が計られ、今後更に農地を集め効率的な農業経営を目指していきます。



3 いつ整備が完了するのですか？

平成29年春までに約253haの81%の206haで営農を開始しており、平成30年の春には計画の1年前倒しですべての農地で、営農が開始できるよう急ピッチで工事を行っています。

また、東日本大震災による地盤沈下による湛水に対応するため、排水ポンプの整備も併せて行っており、ほ場整備と同様に計画の1年前倒しで平成30年度中にはすべての排水ポンプが稼働する予定です。

（農村整備部）



（H27.1 夏井地区整備前）



（H29.7 夏井地区整備後）



（下仁井田地区作付け状況）

環境と共生する農業を推進しています ～エコファーマー・特別栽培・有機農業～

【環境と共生する農業とは】

農業の持つ物質循環機能を生かし、生産性との調和に留意しつつ、土づくり等を通じて化学肥料・化学合成農薬の使用削減等による環境負荷の軽減に配慮した農業のことです。

環境と共生する農業に取り組まれている農業者の方のために、〈エコファーマー〉、〈特別栽培農産物〉、〈有機栽培農産物〉の3つの認定制度があります。

〈エコファーマー〉

エコファーマーとは、堆肥等の有機質を活用した土作りと併せて、化学肥料・化学合成農薬の使用量低減等を位置づけた持続性の高い農業生産方式を導入する計画書を各作目・作型ごとに作成し、知事から認定を受けた農業者です。いわき市では現在483件（H29、9月時点）が認定されており、環境に配慮した農業生産を行っています。

エコファーマーになると、エコファーマーPRマークやエコ農産物PRマークを使用することができ、知事の認定を受けた農業者であること、認定された導入計画に基づいて栽培された農産物であることを示すことができます。



エコファーマー・エコ農産物PRマーク

〈特別栽培〉

特別栽培とは、化学農薬の使用回数と化学肥料の窒素成分を、県で定めている慣行使用基準の50%以下にして栽培することです。

県では、「福島県特別栽培農産物認証制度」による第三者認証制度があり、いわき市では、トマト、ネギ、水稲16件が特別栽培農産物として認証されています。認証された農産物や包装には認証票を標記することができます。



特別栽培農産物「親バカトマト」

〈有機農業〉

有機農業とは、化学肥料、化学合成農薬を使用せず、遺伝子組み換え技術を利用しないことを基本として、環境への負荷をできる限り少なくする農業生産の方式を言います。また、更に第三者から認証を受けた有機農産物には、有機JASマークを使用することができ、「有機〇〇」や「オーガニック〇〇」などと表示して販売することができます。

現在、いわき市内で第三者認証を受けている有機農業ほ場は、2.4ha（H28、県調べ）となっています。一方、第三者認証は受けてはいませんが、有機農業に相当する生産を行い、消費者等と相対販売などを通じて経営を行う農業者も見られます（4.2ha、H28、県調べ）。

県では、平成29年度より有機JAS認証に係る費用や有機農業に利用する機械・施設へ助成する「環境にやさしい農業拡大推進事業」を創設しました。



認定機関名

有機JASマーク

出典：農林水産省
Web サイト

【県の取り組み】

県では、この3つの認定制度に興味のある農業者や、取り組んでいる農業者に技術・経営指導や、事業申請支援を行っています。

エコファーマーについては、さらに理解を深めていただくため、研修会やセミナーを開催する予定です。

有機農業については、県内各方部に有機農業推進担当を置き（浜通り担当は、相双農林事務所双葉農業普及所に配置）、有機農業推進にあたっています。7月には、消費者にもっと



（麦リビングマルチを利用した実証）



（オーガニックじゃがいも掘りの様子）

有機農業を応援していただけるよう、市内幼稚園児とその保護者に対して、オーガニックじゃがいも掘りと有機JASマークを理解していただく現地セミナーを開催しました。また、今年度は有機農業の応用的技術の実証・確立に向け、（表1）の技術実証に取り組んでいます。

環境と共生する農業に興味のある方はぜひ下記へお問い合わせください。

（農業振興普及部）

（表1）平成29年度の相双・いわき地域における有機農業技術実証

品 目	設置場所	実証技術
水稻	南相馬市 原町区	脞大豆等有機物施用と敵期の機械除草を組み合わせた効果の高い除草技術体系
野菜（オクラ、そらまめ）	いわき市 平下大越	野菜類の畝間に麦類を播種したリビングマルチによる省力的な除草技術の実証

（表2）有機農場ほ場面積

（単位：ha）

	平成22年度	平成28年度
県全体	282	187
うち 浜通り	97	19
いわき	3.7	2.4

福島県調べ

お問い合わせ

福島県いわき農林事務所
農業振興普及部

◆TEL：0246-24-6161

首都圏の大学生がいわきの「今」を見学！〔第1回:10月14日(土)・第2回:21日(土)〕

いわき地方振興局、いわき農林事務所主催の「いわきの今を見に行く！モニターバスツアー」を実施しました。このバスツアーは首都圏の大学生を対象とし、福島県の農林水産物の安全・安心の取組や復興状況等を直に見て体感してもらうことを目的としており、今年で5年目になります。

各回とも35名、計70名の首都圏10大学の学生等が参加したほか、第1回にはいわき明星大学から2名参加し、参加者たちはいわき各地を見学しながら交流を深めました。

さらに、今回の体験を家族や友人に伝えたり、SNSで共有したりと情報発信をしてもらうことによって、福島の魅力や農林水産物の安全性などの情報が広がるのが期待されます。(企画部)

バスツアー見学ルート

① ワンダーファーム (四倉町)

施設概要・GAP等説明/選果場見学/トマトの摘み取り体験/昼食「森のキッチン」ピュッフェ



(トマト摘み取り体験)

② JA福島さくら 第6営農経済センター (渡辺町)
米の全量全袋検査見学



(バルトコンベア式検査機器の見学)

④ いわき沿岸の復興状況見学 (岩間町)

復興状況見学

③ アクアマリンふくしま いわき・ら・ら・ミュウ (小名浜)
講義 (アクアマリンの復興・水産物のモニタリング検査・海岸沿いの復興について)



(アクアマリンふくしまにて、建設事務所遠藤課長による海岸復興の説明)



① ワンダーファーム



元木社長（左）による説明



新鮮野菜豊富なビュッフェ

② JA福島さくら第六営農経済センター



高萩係長（右）による現地説明

③ アクアマリンふくしま、いわき・ら・ら・ミュウ



水口観光交流チームリーダー（左）、富原環境研究所チームリーダー（右）による説明



「潮目」の海を表す
三角形のトンネルが見所の一つ

④ いわき沿岸の復興状況見学



岩間地区の復旧状況
海岸堤防内側に防災緑地の工事中
（左上は常磐共同火力発電所）

参加した大学生の主な感想

- ・様々な分野のいわきの方の思いを聞き、「もっと知りたい」と思うきっかけとなった。
- ・厳密な検査をしているので、福島の食べ物はかなり安全度が高いということが分かった。
- ・初めて福島に来てみて、風評被害でいかに不安があおられているかを思い知った。
- ・復興に向けて取り組んでいる姿に感動した。福島県の方は皆温かくて、非常に良い場所だと思った。
- ・テレビでは伝わらない福島のパワーを感じた。
- ・私たちも福島の農林水産物の安全さを発信する必要があると思った。
- ・「買う」「伝える」ことで自分も福島復興の力になりたい。
- ・実際に見て、食べて、話を聞くことで、福島の安全性を感じるだけでなく、福島がとても好きになった。

「いわき×県中×会津」魅力満載！フェスタ開催 【9月18日(月・祝)】

今年10月1日に全線開通20周年を迎えた磐越自動車道が通るなど、交通上密接なかかわりのある“いわき・県中・会津地方”のそれぞれの魅力をPRするイベントを、道の駅あいづ湯川・会津坂下にて、各地方と連携して開催しました。

当日は、3地方それぞれの魅力が詰まった産品販売や各地方の伝統芸能等を披露するステージが行われました。いわきブースでは、郷土料理さんまのポーポー焼きやウニの貝焼き、かまぼこ、梨、6次化商品などが販売され、多くの来場者が買い求めていたほか、“いわきの海の生き物と触れ合える”タッチプールは子ども連れに人気を博していました。また、数量限定で振る舞ったいわき市の魚メヒカリの唐揚げは特に好評で、いわきの海の幸のPRを行うことができました。（いわき地方振興局）



（旬のサンシャインいわき梨「豊水」も販売）

「サンシャインいわき梨祭り」開催

〔9月19日(火)〕

いわき市泉のいわき市立玉露保育所にて、JA 福島さくらいわき梨部会と JA 福島さくらいわき地区本部共催の「サンシャインいわき梨祭り」が開催されました。

梨生産部会の大森代表、JA 福島さくらいわき地区本部の大和田本部長、株式会社平果の鈴木会長のあいさつの後、各来賓から園児たちに「豊水梨」が手渡されました。園児からは、お礼のことばと、手作りの「感謝状」が贈られました。

試食では、子どもたちに大人気のいわき農産物マスコットキャラクター「なしポチ」も登場し、園児たちは大喜びで「なしあまーい！おいしーい！」と声を上げながら、ひとくちでは食べきれない大玉の梨を元気いっぱいほおぼっていました。

(農業振興普及部)



(「なしポチ」と豊水梨の試食)

高病原性鳥インフルエンザ初動対応を確認！〔10月18日(水)〕

平成29年度福島県高病原性及び低病原性鳥インフルエンザ対策いわき地方連絡会議を開催しました。

家きん(鶏、あひる、うずら、きじ、だちょう、七面鳥など)において高病原性鳥インフルエンザが発生した場合は、拡散防止のため、速やかに防疫措置をする必要があります。

昨シーズン、福島県内の家きんでの発生はありませんでしたが、全国的には高病原性鳥インフルエンザが多発し、県内においてもいつ発生してもおかしくない状況となりました。

今回の会議では関係機関、団体の担当職員が高病原性鳥インフルエンザ発生時に適切に対応できるよう、情報の共有や初動対応等を確認しました。

高病原性鳥インフルエンザ発生リスクが高まる本格的なシーズン到来に向けて、万全の体制を整備してまいります。

(農業振興普及部)



(連絡会議の様子)

「ふくしまの旬の食&ご当地キャラフェスタin羽生PA」開催〔9月30日(土)〕

福島県県南地方・南会津地方・いわき地方の「おいしい！」が大集合するイベントに出展し、いわき市のPRを行いました。

いわきブースでは、いわき市のトマトや梨、旬を迎えたイチジク、いわきねぎなどのいわきを代表する農産物のほか、郷土料理さんまのポーポー焼きなどの「常磐もの」の販売を行いました。

特に農産物が好評で、試食を提供すると、「甘い」、「みずみずしい」といった感想があがり、首都圏在住者に対して、いわき市の食の魅力がPRすることができました。



(いわき市の旬の農産物が満載！)

(いわき地方振興局)

福島大学スタディーツアー [9月26日(木)・27日(金)]

都市圏の方々を対象として福島の漁業の現状を学んでもらうスタディーツアーが開催されました。本ツアーは、福島大学の学生を中心に組織するスタふるプロジェクトが企画・運営し、平成24年から毎年開催されてきたもので、今年で6回目になります。初日に、福島の漁業の現状について、水産試験場から説明を受け、いわき市漁協の漁業者18名と懇親会で親睦を深めました。2日目には、沼之内魚市場で試験操業の入札販売の様子を、漁船に乗船して船曳網漁業の操業風景を見学し、乗船できた参加者は大変喜んでいました。



(乗船体験の様子)

この機会に福島の漁業への感心を高めた参加者も多く、こうした体験を地元でも積極的に情報発信してくださっているとのこと。また、過去の参加者が東京で集まり、試験操業の水揚げ物を用いた料理教室を開催するなど、福島の漁業のファンクラブとして活動しています。(水産事務所)

「Iwaki Laiki」米粉フェスタ [9月30日(土)・10月1日(日)]



(ステージイベントも大好評)

小名浜アクアマリンパークにおいて、「Iwaki Laiki」米粉フェスタ2017が開催され、約4万5千人が来場しました。いわき市やJA、米の卸問屋などで結成された「Iwaki Laiki」戦略ブランド化推進本部が主催しました。

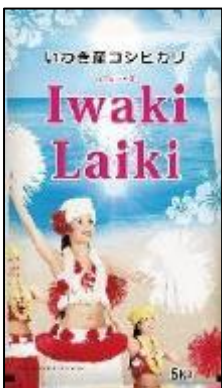
当イベントは、6次化商品の開発等によるいわき産米のイメージ回復と消費拡大、風評の払拭を目的に開催されました。

会場には地元の企業や高校などが出店し、いわき産コシヒカリ「Iwaki Laiki」の米粉を使用したパスタやピザ、すいとんなどのほか、米粉入りのジェラートなどのスイーツが販売されました。また、農林水産省「料理マスターズ」受賞のフランス料理店「Hagi」のオーナーシェフ監修による水餃子やチヂミなども出品され賑わいをみせました。ステージでは、ファイアーナイフダンスやフラダンスのイベントも行われ、会場をより一層盛り上げました。(いわき地方振興局)



(米粉のピザ・ジェラート)

「Iwaki Laiki」について



「Iwaki Laiki」(いわきライキ)は、いわき産米のイメージを回復させることを目的に、平成26年10月につくられたブランド米で、全国有数の日照時間を誇るいわき市でミネラル豊富な肥沃な土地と澄んだ水によって育まれた「いわき産コシヒカリ」です。いわきが生んだ白いダイヤ「Iwaki Laiki」をぜひご賞味ください。

- ★「Laiki」(ライキ)
…「神聖な食べ物である米」を意味するハワイ語。

プレミアム
「Premium IwakiLaiki」誕生
生産者は、米・食味鑑定士協会が認定したプレミアムライセンスクラブベストファーマー。厚いほど食味が良いとされている粒の厚さは、全国基準を大きく上回る2.0mm以上。低いほどもちもちして美味しいといわれているタンパク質の含有量は、つや姫や晴天の露露と同等の6.4%以下。「粘り」「甘み」「食感」どれをとっても最高の味です。プレゼントや記念日など特別な日にご活用ください。



いわき地方の農林水産物モニタリング検査結果（平成29年9月分）

□ 農林畜産物の検査結果

13品目27検体を検査した結果、クリ1検体が基準値を超過しましたが他26検体は基準値以下でした。内訳は（表1、2）のとおりです。また、出荷制限状況は（表3）のとおりです。（企画部）

（表1）放射性セシウムが基準値以下の品目と検体数

イチジク 1、クリ 4、ブドウ(施設) 1、日本ナシ 1、エリンギ(施設) 1、菌床うすひらたけ(施設) 1、菌床しいたけ(施設) 4、菌床なめこ(施設) 3、原木しいたけ(施設) 1、原木ひらたけ(露地) 1、小豆 1、牛肉 3、原乳 4

（表2）放射性セシウムが基準値を超過した品目と検体数

クリ（110Bq/kg）

（表3）出荷制限および出荷自粛品目（9月末現在）

制限、自粛	区 分	品 目
出荷制限	山 菜	たけのこ、ぜんまい、たらめ（野生のものに限る）、わらび、こしあぶら
	きのこ	原木なめこ（露地）、野生きのこ（摂取も制限）
出荷自粛	山 菜	さんしょう（野生のものに限る）
	果 物	クリ（該当生産者に限る）

□ 海産魚介類の検査結果

671検体の魚介類を検査し、放射性セシウムの基準値（100Bq/kg）を超えたものはありませんでした。

放射性セシウムの検出限界値未満（以下、ND）の割合は、平成29年9月には97.7%となっています。9月30日現在の出荷制限等指示魚種は（表）の10種類になっています。

（表）海産魚介類に関する国の出荷制限等

ウミタナゴ	サクラマス	ムラソイ
カサゴ	シロメバル	ピノスガイ
キツネメバル	スズキ	
クロダイ	ヌマガレイ	

（水産事務所）

平成29年9月30日現在

サケさし網漁が始まりました

10月4日にいわき市漁協沼之内支所魚市場、小名浜魚市場において、さし網*で漁獲されたサケの初水揚げがありました。本県で水揚げされるサケはシロザケでこの日の沼之内支所魚市場では、メス86kg、オス181kgが水揚げされました。シロザケは、イクラの原料となる魚卵をもつメスの方が高値で取引され、この日もメスはオスの2倍以上の単価で入札されました。



※魚の通り道に帯状の網を仕掛け、網目に刺さった魚をとる漁法。

イベント情報

第3回「おいしい ふくしま いただきます！」キャンペーン

- 日 時：平成29年11月12日（日）10：00～
- 場 所：ワンダーファーム
- 主 催：福島県いわき農林事務所

消費者へ県産農林水産物の美味しさや安全性を再認識していただき、風評払拭・消費拡大を実現するため、消費拡大キャンペーンとして「おいしい ふくしま いただきます！」キャンペーンを実施しています。当日、ワンダーファームでは、「ママフェス」を開催予定です。

「ふくしま おさかなフェスティバル in いわき」

- 日 時：平成29年11月12日（日）10：00～15：00
- 場 所：小名浜魚市場
- 主 催：福島県

サンマつかみ取り、漁協女性部の食べ物コーナー、ホシガレイ稚魚の放流体験、県調査船「いわき丸」乗船体験など多彩な企画をご用意しています。ふくしまの漁業を学び、地域を盛り上げましょう！

トピック1

草野平治さん、平成29年度福島県林業コンクールで知事賞を受賞

林業コンクールは、林業技術の向上と林業経営の改善を図り、本県林業の発展を推進するため開催されております。

今回、間伐部門で県知事賞を受賞した三和町の草野平治さんは、所有山林の整備を熱心に行っており、受賞の対象となったヒノキ林は、100年の長伐期を目指し施業を行ってきました。林内は、十分な枝打ちが行われており、また適期に間伐が行われていることからすがすがしい空気が感じられます。



受賞した草野氏のヒノキ林（三和町）

トピック2

田人中学校、第68回福島県学校関係緑化コンクールで知事賞を受賞

学校関係緑化コンクールは、緑化教育の一層の推進を図るため実施しているもので、特に森林を計画的に活用し、生徒への緑化教育や生産活動、体験活動を通じて顕著な効果を上げた学校を対象に実施しています。

田人中学校は、地域を学ぶ「たびと学」を実践しており、その一環として震災の影響で一時活動を休止していた学校林の整備を再開し、地元の林業研究グループの指導を受けて地域と一体となった森林整備活動を行い、さらに森林の整備で発生した間伐材を利用してコースターを作成し、震災の時に支援を受けた宮崎県の中学校に贈っています。これらの取組みが高く評価され、今回県知事賞に選ばれました。



地元の林業研究グループ員から間伐作業の手順を学ぶ様子

第69回全国植樹祭一般参加者（県内公募）募集中！

平成30年6月10日（日）に福島県南相馬市で開催される国土緑化運動行事「第69回全国植樹祭」の一般参加者（県内公募）を募集中です。

申込み期間は11月30日（木）まで。応募方法はインターネットによる申込みのほか、持参又は郵送となっています。

参加者の皆さんには、南相馬市で開催される全国植樹祭の式典行事や記念植樹に参加していただきます。式典行事では、天皇皇后両陛下によるお手植え・お手播きや、福島の復興・再生をテーマとしたアトラクションなどが行われます。また、記念植樹では、東日本大震災による津波で大きな被害を受けた海岸防災林を再生するため、クロマツやコナラなどを植樹する予定です。

募集の概要は以下のとおりですが、詳しくは、全国植樹祭推進室のホームページを御覧ください。



～募集の概要～

- 1 開催日 平成30年6月10日（日）
- 2 場所 南相馬市原町区雫地内の海岸防災林整備地
- 3 募集人数 1,500人（応募者多数の場合は抽選を行います。）
- 4 申込受付期間 平成29年10月2日（月）～平成29年11月30日（木）
- 5 応募資格 福島県内在住で、満18歳以上（平成30年4月1日現在）の方。
満6歳以上18歳未満の方の参加には保護者の承諾が必要です。
- 6 応募方法 （1）インターネットでの申込（推奨）
（2）専用の応募用紙を郵送又は持参
- 7 お問い合わせ先

第69回全国植樹祭福島県実行委員会事務局（福島県農林水産部全国植樹祭推進室内）

電話 024-521-8655 FAX 024-521-8658

電子メール syokujusai@pref.fukushima.lg.jp

福島県全国植樹祭 [で検索](#)

なお、いわき農林事務所森林林業部にも応募ガイドがありますので、お問い合わせください。

GAP 認証取得事例紹介～あかい菜園株式会社～

今年3月にJGAP 認証を取得した農業生産法人あかい菜園(株)の、GAP担当の小島直記氏と栽培担当の岩崎優氏にお話を伺いました。

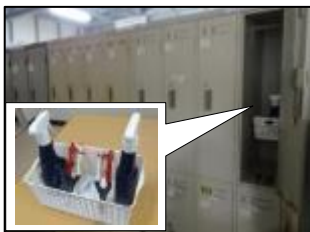
社内で曖昧だった部分をはっきりさせ、生産効率向上を図るためにも、GAP 認証は社内をより良くできるチャンスと考え、導入を決断されました。導入後には、設備・在庫管理を徹底することによって、経営ロスの削減や作業効率の向上、労働環境の改善につなげました。また、社内のルール作成・周知によって、管理者から従業員への指導に一貫性が生まれ、従業員も根拠を理解して作業に取り組めるようになったといいます。



(左から：岩崎氏・小島氏)

小島氏は「GAP 導入をきっかけに、社内で振り返りを行う機会ができた。安全・安心な生産がしっかりとできているか振り返ることにより、生産した作物に改めて自信を持つことができる。」と強調されていました。

☆GAP 導入による改善箇所



電解水ボトルと作業用ハサミをロッカーで整理



蛍光灯へカバー設置
→飛散防止し、異物混入を予防



転倒注意の掲示
→労働災害を未然に防ぐ



段ボールの用途を表示
→見える化・効率化

「ふくしま地域産業6次化新商品カタログ」に掲載された6次化商品をご紹介します！

四倉町の「食処くさの根(株)」では、いわきの郷土料理を商品化した「さんま丸ごとポーポー揚げ」、「さんまじゅうねん干し」を地元の食材だけを使い、一つ一つ手作業で作っています。無添加のため冷凍販売となっており、電子レンジやフライパンで温めるだけで手軽にお召し上がりいただけます。ごはんのおかずやお酒のつまみに、いわきの美味しさをお楽しみください。「食処くさの根」での店頭販売だけでなく、ネット販売も行っておりますので、下記お問い合わせ先のWebページをご覧ください。



左から店長の新谷透さん
代表取締役の新谷尚美さん
直売所主任の新妻さん

お問い合わせ

食処くさの根 株式会社

●いわき市四倉町字東2丁目167-1 ●TEL.0246-32-6460
●<http://kusano-ne.net/>



さんま丸ごとポーポー揚げ

内容量 : 90g×2
販売価格 : 432円(税込)

手作業で骨を取り除き味噌味で仕上げた郷土料理です。魚が苦手な方でも丸ごと食べられる栄養たっぷりのハンバーグ風です。



さんまじゅうねん干し

内容量 : 90g×2
販売価格 : 540円(税込)

さんまをえごまのたれに漬け込みソフトに仕上げました。焼き上がりが香ばしく、ごはんのおかずやお弁当に、お酒のおつまみにも合う一品です。フライパンで軽く焼いてお召し上がりください。

「ふくしま地域産業6次化新商品カタログ」は「ふくしま6次化情報STATION(<http://6jika.com/>)」に掲載されていますので、是非ご覧ください。

いわき管内の 県農林水産部関係機関 業務紹介

本コーナーでは、いわき管内の県農林水産部関係機関の業務を紹介いたします。今回は、水産事務所を紹介いたします。

福島県水産事務所は、主に浜通り地域を所管する事務所で、総務課と漁業振興課からなり、水産業協同組合法等に基づく組合への運営指導や漁業者への金融支援、漁業の許認可や漁船登録事務、漁業取締船「あづま」等による漁業指導の他に、水産資源の持続的利用に向けた漁業者による栽培漁業等の支援や、漁業復興に向けた、漁業の生産基盤の復旧等支援、漁業担い手の活動支援、東日本大震災等で自粛している沿岸漁業の操業再開支援に取り組んでおります。

さらに、今年度より本県水産物に特徴を持たせ、競争力を強化して、販路を拡大することを目的とし、第三者による認証制度「水産エコラベル」認証取得の支援、認証水産物の流通支援に取り組んでおります。

現在、県内各河川ではサケの遡上が始まっておりますが、河川及び河口付近では、サケの採捕は法令等により禁止されており、当所でも巡回取締りを行っておりますが、これらの場所でサケを採捕されないよう、ご注意事項です。

水産事務所の主な業務

- 漁業の生産基盤の復旧等支援
- 漁業担い手支援
- 漁業再開支援
- 水産業協同組合法等に基づく常例検査等
- 「県一漁協」合併支援指導
- 制度資金による漁業者支援
- 栽培漁業への支援
- 漁業の許認可
- 漁船登録等
- 漁業取締
- 福島県水産物競争力強化支援



(漁業取締船「あづま」)



いわき農林事務所

キャッチフレーズ

このキャッチフレーズには、「燦々と降り注ぐいわきの太陽の光のように、農林業に携わるすべての人に、一日でも早く真の笑顔があふれるよう、所員が一丸となってスピード感と緊張感を持って目に見える成果を求めていく」という思いを込めています。

◎ 皆様からのご意見・情報をお待ちしております。

福島県いわき農林事務所 企画部 地域農林企画課

〒970-8026 福島県いわき市平字梅本15番地

(県いわき合同庁舎 3階)

T E L (0246)24-6152 F A X (0246)24-6196

U R L <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36270a/>



いわき農林水産ニュース